

マネジメントゲームの勧め



経営者にとって「経営戦略」は意識せざるを得ない課題です。しかし、この戦略は観念的な部分が多くイメージしづらいのも事実です。

あらゆる言葉に「戦略」という言葉を続ければそれが戦略です。

競争戦略、成長戦略、差別化戦略、・・・

ランチェスター戦略・・・ニッチ戦略・・・

経営者の数だけ戦略がありそうな勢いです。

このような、戦略三国志的な状況に、明らかな指針を示すもの、それが計数すなわち会計です。そして、この経営に役立つ会計（別名「戦略会計」と呼ばれています）を学ぶためのツールが「マネジメントゲーム(MG)研修」なのです。すなわち、経営戦略に計数という力を与えることによりその戦略が具体化し見えてくるのです。

マネジメントゲーム (MG) 研修とは

マネジメントゲーム研修は、参加する皆さんひとり一人が社長となって会社を運営し、そこで起こる様々なことに対処しながら利益を上げるためにはどうすればよいかを考えるゲーム研修です。ゲーム盤の上で繰り広げられる会社の運営をとおして、あなた自らが意思決定を行い、その結果が決算による利益数値となって現れます。

マネジメントゲーム研修の進め方

マネジメントゲームでは、実際の会社と同じように1事業年度内に様々な意思決定を行い、会社の利益が最大になるよう経営を行っていきます。マネジメントゲームワンデープログラムを例にしますと、全部で4期の決算を行いま

す。第1期はルールの説明、第2期は成り行き経営、第3期、第4期で自分の意思で経営を行います。

自分の番になったときに、意思決定カードと呼ばれるカードを引きます。そこには「ルールを一つ実行できます」やいくつかの選択を要することが書かれています。このときに、材料を購入することや製品を販売するなど、自分で一つの決定をし、実行します。市場で製品を販売するときは競争入札方式ですので、せり売りの方により販売が行われます。このとき、他の人が販売をするときは、これに応札することができます。

ゲーム盤の市場における企業間競争を通じて、設備投資、仕入、社員採用、生産、販売、借入などの様々な場面での意思決定を繰り返しながら会社を成長させ、これをとおして会社の成長に必要なノウハウを学んでいくこととなります。

マネジメントゲームで学ぶもの

マネジメントゲームの根幹にあるのが「損益分岐点」、「採算」といった会計の視点です。マネジメントゲームで学ぶ実践的な会計知識は、今後経営を行っていくうえで共通言語になります。「販売数量」、「販売単価」、「固定費」、「付加価値率」・・・シンプルな思考で経営者の経営戦略を支えていくことでしょう。

オフィスダックスでは、マネジメントゲームから学んだ会計を経営に役立てていただけるよう、経理の側面からお手伝いをしています。

